

[OTHERS]

雑誌名	言語科学研究：神田外語大学大学院紀要
巻	3
ページ	71
発行年	1997-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1092/00000310/

大学院研究室だより

大学院の開設

1987年4月神田外語大学外国語学部：英米語学科200名・中国語学科60名・スペイン語学科20名・韓国語学科20名を設置し開学。

1992年4月神田外語大学大学院言語科学研究科が、英語学専攻（修士課程）と日本語学専攻（修士課程）の2専攻、入学定員：英語学専攻8名・日本語学専攻8名をもって開設。現在は英語学専攻が英語学コース・英語教育学コース・英語コミュニケーションコースの3コース、日本語学専攻が日本語学コース・日本語教育学コースの2コース、計5コースを設置。

更に、学際的言語科学の創造的開発能力を持つ研究者養成の為、神田外語大学大学院言語科学研究科博士（後期）課程を1994年4月に入学定員2名として設置。

開設からの入学者及び修了者数

修士課程（博士前期課程）				博士後期課程		
	英語学専攻		日本語学専攻		言語科学専攻	
	入学者	修了者	入学者	修了者	入学者	満期退学
一期生	8人	5人	10人	8人	3人	3人
二期生	6人	2人	12人	10人	2人	
三期生	5人	4人	9人	8人	2人	
四期生	7人	2人	9人	9人		
五期生	4人		9人			
合 計	30人	13人	49人	35人	7人	3人

平成8年度修士論文題目と執筆者氏名（前期修了者）

英語学専攻

“A Comparative Study of Compliance between Japanese and
New Zealanders” 糸井 江美

“A Study on Teaching English at the Elementary Schools in Japan
— Mimicry of English Pronunciation — ” 渡辺 祐子

日本語学専攻

「日本語学習者における中間言語研究」 佐藤 史子

平成8年度修士論文題目と執筆者氏名

英語学専攻

“A Comparative Study Between Japanese and
Chinese Lower-Secondary School English Textbook” 潘 婕

“An Analysis of English Textbook for Lower
Secondary School Students” 脇田 恭代

日本語学専攻

「結果構文の概念構造」 星野 起美

「日タイ語の再帰代名詞の対照研究」 パンセク・アトントゥラスク

「Event Structure から見た『たくさん』の解釈」 鈴木 和子

「『捷解新語』における授受表現」 丁 鋼徹

「『捷解新語』における自動詞・他動詞の対応

～初刊本を中心に日朝三本対照を通して～」 乾 浩

「対話文における『ガ』の省略」 唐澤 和子

「日本漢字音における慣用音の研究」 若松 由美

「長野県木曾北部方言の記述的研究」 長谷川由香

「指示詞コソアの選択基準」 西 喜弘

「日・タイ両語アクセント研究

ータイ人日本語学習者の日本語のアクセントの特徴ー」

..... ワンナー・タティヤチョークサクン

「アメリカ人日本語話者のあいづち表現

ー日本語教育への一提言ー」 ニコリッチ・細中・ネベンカ

「『捷解新語』における格助詞『を』の研究

ー日韓対照研究の観点からー」 林 昌奎

「在日外国人児童生徒における日本語の主観表現の習得」 鴻野 豊子

修士課程修了者の進路

修士課程修了者は上記の通り1期生から4期生まで48名（英語学専攻13名、日本語学専攻35名）である。

社会人学生も多いので、これらの学生は在学中から中学・高校の英語教諭、日本語教師養成や日本語教育の常勤または非常勤講師として活躍している。

課程修了後の進路としては、94年開設の博士後期課程への進学4名、他大学の大学院への進学1名、神田外語大学言語教育研究所専任助手1名、北京にある日本人学校の教師1名、韓国の慶北大学の日本語講師5名などで、国内はもとより海外での活躍も目立つ。

博士論文提出資格者

博士論文提出資格は本学大学院言語科学研究科言語科学専攻博士後期課程における所定の単位を修得し、かつ研究報告論文審査に合格した者に授与されるもので、第1期生3名がその資格を得た。

「卓越した研究拠点」(Center of Excellence - COE) の発足

文部省科学研究費による先端的言語研究のプロジェクトが、本学大学院を拠点として1996年から発足した。井上和子学長を研究リーダーとし、本学内外の研究者が39名参加している。研究テーマは「先端的言語理論の構築とその多角的な実証」である。

平成8年度 講演会・研究会

＜神田外語大学大学院講演会＞

1996年5月30日

The Extension of Projections

..... オランダ Tilburg University 教授 Henk van Riemsdijk

大学院事務局人事異動

大学院設置準備より大学院の開設と運営にご尽力頂いた大学院事務部長・佐久田昌三氏が平成8年12月をもって退職された。修士完成年度から博士完成年度に至るまで無事に運営を進めるには協力の輪をつくりつつ、一方ならぬご苦勞があったものと拝察する。

スタッフ一同、深く感謝申し上げます。

尚、後任には平成8年11月より大学院事務課長・笠間多加夫氏が就任。
又、大学院共同研究室の教務補佐員も奥脇由美さん・平賀喜代美さんに代り、平成8年3月より大野ゆりさんが就任している。

平成8年度開講科目、担当者

[修士課程]

－ 英語学専攻 －

－ 日本語学専攻 －

授業科目	担当者
英語学研究 IIA・B (統語論)	長谷川信子
英語学研究 IIIA・B (語彙・意味論)	村木 正武
英語学研究 IV (現代英語語法)	久泉 鶴雄
英語学演習 I	村木 正武
英語学演習 II	長谷川信子
英語教授法	S. イーグル
英語表現法 I	原岡 笙子
英語表現法 II	B. ホートン
英語教育学演習 I	F. ジョンソン
英語教育学演習 II	佐々木輝雄
英語コミュニケーション論	平井 一弘
スピーチコミュニケーション	松本 茂
英語コミュニケーション演習	久米 昭元
応用言語学	小池 生夫
音韻論A・B	河野 武

授業科目	担当者
日本語学研究 IIA・B (統語論)	奥津敬一郎
日本語学研究 IIIA・B (語彙・意味論)	徳永 美暁
日本語学研究 IV (方言研究)	大島 一郎
日本語史	大島 一郎
日本語学演習	大島 一郎
日本語教育学演習 I	奥津敬一郎
日本語教育学演習 II	徳永 美暁
日本事情	山領 健二
日本文化論演習	梶尾 俊哉
日中韓対照言語学	奥津敬一郎
韓国語学概論	浜之上 幸
スペイン語学概論	江藤 一郎
日本語教授法 I	岩本 遠億
日本語教授法 II	徳永 美暁

－ 両専攻共通科目 －

異文化コミュニケーション論	久米 昭元	日本語表現法A・B	徳永 美暁
言語学	J.E. エモンズ	英日対照言語学	井上 和子
意味論	村木 正武	言語学特論 I	岩本 遠億
情報科学	山本 修	言語学特論 II	原口 庄輔
日本語学概論	奥津敬一郎	言語学特論 III	J.E. エモンズ
日本文化論	梶尾 俊哉	言語学特論 IV	渡辺明／桑原和生
日本語学研究 I(音声・文字)	大島 一郎		

[博士後期課程] － 言語科学専攻 －

授業科目	担当者	授業科目	担当者
言語学特論演習 (1)	井上 和子	日本語学特論演習	大島 一郎
言語学特論演習 (2)	奥津敬一郎	日本語学特殊研究	徳永 美暁
英語学特論演習 (1)	村木 正武	コミュニケーション特殊研究	久米 昭元
英語学特論演習 (2)	F. ジョンソン	比較日本文化特殊研究	梶尾 俊哉
英語学特殊研究	J.E. エモンズ		

(筈間 1997. 2. 11)

編集後記

前回の第2号は10編の論文が掲載でき、予算をオーバーして嬉しい悲鳴をあげた。ところが今回は5編にとどまった。わが大学院「文華おおいに開く」とまでは言えないが、質で評価していただきたい。この3月で博士課程後期が完成する。やがて学位取得者も出よう。大学院紀要のいっそうの充実を期したい。

執筆者紹介（掲載順）

村 木 正 武
青 木 ひろみ
伊 藤 健 人
佐 藤 史 子
佐 野 香 織

神田外語大学大学院教授
神田外語大学大学院前期修了
神田外語大学大学院前期修了
神田外語大学大学院前期修了
神田外語大学大学院前期修了

言 語 学
日 本 語 学
日 本 語 学
日 本 語 学
日 本 語 学

編集委員

奥 津 敬一郎（委員長）
原 岡 笙 子
上 田 由紀子
外 崎 淑 子
村 山 和 人
大 野 ゆ り（事務担当）

言語科学研究 第3号

1997年3月発行
発 行 〒261

千葉市美浜区若葉1-4-1
神田外語大学大学院
TEL. 043-273-1233
FAX. 043-272-1777

印 刷 〒112

東京都文京区小石川1-5-12
猪瀬印刷株式会社